



TITLE:

日本寄語に就き公羊子先生に一言

AUTHOR(S):

田中, 克己

CITATION:

田中, 克己. 日本寄語に就き公羊子先生に一言. 東洋史研究 1937, 2(3): 246-246

ISSUE DATE:

1937-02-23

URL:

<https://doi.org/10.14989/138737>

RIGHT:

日本寄語に就き公羊子先生に一言

大阪 田 中 克 己

松下見林に異稱日本傳なるものゝあることは御承知と存じます。それを拾ひよみしてゐますと日本寄語に類するものとして武備志卷二三一及音韻字海卷之首附録夷語音釋が輯録されてあります。

武備志の方は秋山謙藏氏が「日明關係」でのべてゐられますやうに日本寄語の後出でそれを引いたものゝやうですが、いくらか整頓されてゐると思ひます。

音韻字海の方は更に整頓されてゐますので大して参考にもなりませんかもしれませんが、先號までのところ、私の訓もいくらか加へた比較表御送りします。但し日本寄語は全然東洋史研究によつたので誤植かと思ふ點がありますが、それは公羊子がよく御存じですから。

また異稱日本傳は物集博士編皇學叢書本によりましたが、之も誤植の多い

本で一度原典にあたる必要があることは確かであります。

公羊子申す——田中氏から右の如き懇切な書信に添へて詳細な比較表を御送り下さつたことは深謝に堪へませんが、尙石濱先生からも續說鄂中の寄語を参考すべき旨申されて居り、更に此の續說鄂中の寄語に就いては已に早くも一八八二年刊行の Transaction of the Asiatic Society of Japan, Vol. X, Part 1. に J. Edkins 氏の A Chinese and Japanese Vocabulary of the Fifteenth century, with notes chiefly on pronunciation と題する一文を掲載してゐることを森鹿三氏の御教示によつて知つた様な次第であり、更に其他昨秋本學部で展觀のあつた近衛文庫中にも一寸珍らしき日本寄語の寫本が見えてゐたり、兎

も角寄語に關する資料は續出してゐる有様なので、何れかういふものを一括した折右田中氏のヨミ表も掲載させて頂き度いと思つてゐます。實は小生あの寄語を掲載するに就き、何の用意もあつたわけでなく、只やつて見たら一寸面白さうだ位に心得て始めた處、かくも色々の御教示を給はつた様な次第で小生としては洵に望外の悦びです。今後共諸賢の御教導を御願ひします。

本年度京大東洋史專攻學生

卒業論文一覽

後魏初に於ける漢族に就いて

(特に轍漢關係)

岡田芳三郎

佛教移入と漢末社會の諸事象

岡村道三郎

宋代私塾の開展

大谷榮之助

宋朝と南海貿易

木田道太郎

唐中葉以後の商業問題古賀義勝

清朝入關前の俘虜と降民

塚本主税